



第57回日本PTA東北ブロック研究大会仙台大会

2025 9 13(土) ~ 14(日)

仙台で織りなす未来

PTA仙台

～居場所を創るSDGsプロジェクト～

東北ブロック大会特別号 仙台市PTA協議会 TEL227-9545 FAX227-9218 E-mail siptakyo@joy.ocn.ne.jp http://www.pta-sendai.gr.jp



おかげさまで「第57回日本PTA東北ブロック研究大会仙台大会」を無事に終えることができました。仙台にお越しくださった皆様、そしてこの素晴らしい大会とともに作り上げていただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

今大会には東北六県から1,000名を超える参加者をお迎えし、多くの学びを共有することができました。「研究大会」の名にふさわしく、分科会や全体会では専門家の皆様から貴重な成果発表をいただきました。四つの分科会、一つの特別分科会、そして全体会を通じて、まさに充実した内容となったことを大変うれしく思います。

分科会では、それぞれのテーマに合わせて講師陣やパネリストから実践的な事例を交えつつ「居場所」をキーワードに深い学びを得ることができました。また全体会では、講師より「信頼できる親以外の大人の存在」が子どものウェルビーイングに直結するという重要な研究成果をご提示いただきました。子どもの周囲に多くの大人が関わることで「自己肯定感」「学習意欲の向上」、さらには「他者理解を司る脳(側頭葉)」の発達に強く関連していることを、確かなエビデンスとともに示されました。我々PTAの活動が、まさに子どもたちの未来を支えているという事実を再確認でき、大変心強く思います。

さらに、実行委員やスタッフの皆様からは「協力の楽しさ」「学びと気づき」「大変さを乗り越えた達成感」といった声が多く寄せられました。初めて顔を合わせた大人同士が一つの目標に向かって力を合わせる楽しさや、普段は得られない学びに触れる機会、そして挑戦の末に得られた爽快感や成長。こうした体験を通じて、PTAが「大人の学びあいの場」であることを改めて実感いたしました。

最後になりますが、大会の開催にあたりご尽力いただいた全ての皆様、そして温かくご支援くださった会員の皆様に、心から感謝申し上げます。今回の仙台大会での学びと経験を力に変え、これからは「子どもたちのために」活動を続けてまいります。

東北ブロックPTA協議会

会長 大曾根 学

第57回日本PTA東北ブロック研究大会 仙台大会を振り返って



第57回日本PTA東北ブロック研究大会仙台大会が、東北六県から大勢のPTA会員の皆様をお迎えし、仙台の地で盛会のうちに閉幕できましたことを、心より御礼申し上げます。

併せて、本大会の開催に向けご尽力いただきました関係者の皆様、そして日頃より、子どもたちの健やかな成長とよりよい教育環境づくりのためにご尽力いただいておりますPTA会員の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。仙台大会開催に向け、実行委員一同は大変多くの皆様から真摯なご意見、ご助言、お力添えをいただけて参りました。二年余りの準備期間を経てご理解・ご賛同いただいた結果、大会参加者、出演者合わせて約1,200名規模の大会となり、今後はアーカイブ配信にて今大会の振り返りをされる皆様も多くいらっしゃるかと拝察いたします。

持続可能な大規模大会の在り方を求め、継続すること、改善することを意識し、私たち大人が、予測できない変化の中でも持続可能(＝サステナブル)な未来を描きたい。家庭・学校・地域の橋渡し役として、PTAは子どもを育む理想的な環境を実現するために、なくてはならないチーム組織と考えます。子どもを地域の真ん中において、家庭と学校、地域が一体となった三位一体の環境を整えていくためには、社会全体で子どもを育てる環境づくり、持続可能な地域づくりをPTAとして担う活動が重要です。コロナ禍を経て、当たり前に交流できた、絆を結んだ時代の恩恵を痛感し、子どもも大人も、生き生きと安心して繋がりを生み出すことができる社会・居場所を創っていく活動をここに伊達な街仙台で、その方策・方向性について思いを共有し、語り合い未来を切り拓く取組を追求したいと考えました。まずは私たち大人が楽しみなが笑顔で活動し、ワクワクするPTA活動、自己成長し感動を共有できるPTAを目指したいものです。子どもたちにすてきな大人の姿を見てもらうことで、子どもたちの自己肯定感がさらに高まることを期待します。家庭・学校・地域・関係諸団体との協働によって、それぞれの居場所の確立、ウェルビーイングの実現を学び結びながら、予測できない変化に対応する自らの考えをアップデートするPTA東北ブロック仙台大会での学びが今後の考え方の活動の一助となれば幸いです。

東北ブロック研究大会仙台大会

実行委員長 高橋 由臣

大会一日目 分科会

9月13日(土)
仙台国際センター 展示棟

第一分科会「組織運営」

第一分科会のテーマは「組織運営」。尚絅学院大学客員教授高谷将宏先生が基調講演され、Society5.0時代の子どもたちは、仮想空間での自分を「本当の自分」と感じる社会に生きるようになるだろうと指摘。そのときこそ、リアルな人と人とのつながりが一層重要になると強調されました。



続いて、高谷先生、コーディネーターの校長先生、秋田市・富谷市・仙台市の三名のPTA会長によるパネルディスカッションが行われました。各氏は、組織運営のスリム化や役員の負担軽減に向けた取組、その中で直面する課題や工夫を紹介。効率化を進めつつも、地域や家庭、学校を結ぶ活動の意義をどう守るかが論じられました。

最後に高谷先生は、「PTAは何のためにあるのか」を忘れてはならないと訴えられました。コーディネーターの校長先生が、負担軽減の流れも、大人の都合ではなく、子どもたちのためにあるべきだと指摘し、より豊かなPTA活動を築こうと呼びかけておられました。

仮想を本当と感じる世代だからこそ、実態ある場で共に生きる知恵と力をどう育むかを考えたいと思いました。

(台原中 石橋芳弘)

第二分科会「家庭教育」

第一部の基調講演では、山形大学大学院准教授川村修弘先生を講師に迎え、「子どもの自己肯定感や社会性の発達を促す居場所づくり」互いに寄り添い、支え合える取組」をテーマにご講演いただきました。「子どもを伸ばす10のポイント」を軸に、学校や家庭で「認められる」経験の重要性や、「以心伝心ではなく言葉で伝えること」の大切さが語られ、ゲーム依存への対応として紹介された「早寝・早起き・朝ゲーム」という言葉も印象的でした。

第二部のパネルディスカッションでは、アスイク代表理事・大橋雄介氏がコーディネーターを務め、パネリストとして福島県PTA・野木和洋様、芦口小教諭・早坂千尋先生、岩手県PTA・金野貴博様が登壇。それぞれの事例が紹介され、川村先生も加わって活発な意見交換が行われました。コロナ禍で停滞した活動をどう再開・回復させたか、「中止を前提とせず、子どものために何ができるか」を考える」といった、多くの共感を呼ぶ視点が共有されました。課題解決のヒントが多く詰まった、まさに「子を持つすべての大人に聴いてほしい」と思える、示唆に富んだ学びの深い分科会となりました。



(田子中 皆川忠徳)

第三分科会「地域連携」

第三分科会は、「地域で共に育む子どもたち」という研究課題で開催されました。文部科学省の泡瀬栄人様のご講演では、子どもたちが地域と一体となった「生きる力」を育むことの重要性を改めて認識しました。これからのPTA活動は、学校と家庭、地域が連携し、子どもたちが社会で活躍するための基盤を築くことが大切だと感じました。



第二部の元宮城教育大学特任教授庄子修先生コーディネーターによるパネルディスカッションでは、地域を盛り上げる活動をされている三名のパネラーの方々のお話から、地域に根ざした活動の多様性と可能性を感じました。PTAも地域の一員として、積極的に地域活動に参加し、共に未来を創っていく必要性を痛感しました。

最後になりますが、第三分科会の担当の先生方、役員、ボランティアスタッフの皆様と短い準備期間の中、力を合わせて大会を大成功に導いたこと、本当に感動いたしました。皆様の熱意と協力がなければ、この成功はなかったと思っております。私もその一員として、心からうれしく、誇りに思います。

今回の仙台大会を通して得た学びと感動を胸に、これからのPTA活動、そして地域活動でも皆と力を合わせて、子どもたちの織りなす未来とともに、地域の発展に貢献していきたいと思いました。

(黒松小 石田純子)

第四分科会「健康安全」

「子どもたちの健やかな成長」子どもの運動発達に向け大人の関りと、部活動の地域移行」というテーマのもと、第一部では、前仙台大学教授郡山孝之先生より基調講演をいただきました。講演では、運動習慣が不登校の割合を減少させるという調査結果や、生涯スポーツの重要性、スポーツ少年団とその団体に関わる大人のあり方、勝利至上主義という慣習の脱却などご自身の経験談を交えながら様々な調査結果をもとにご講演いただきました。

第二部では、郡山先生のほか、多様な経験をお持ちの三名のパネリストを交え、コーディネーターである蓮沼校長先生が活発なディスカッションを展開されました。内容は主に部活動の地域移行に関するものです。パネリストの方々による貴重な事例発表、特に、「たかだてクラブ」様の運営体制は強く印象に残りました。

また、ご来場者様からも数多くのご質問や経験談をいただき、問題点に地域差があるからこそ、それぞれの地域が持続可能な方法で進めていく必要性を改めて痛感いたしました。

「子どもたちが心身ともに豊かに育つ環境づくり」に目を向け、歩み寄り、少しずつでもできることから取り組むことが重要だと感じました。



(長町中 安住ことみ)

特別分科会「人権教育」

第一部では、明

星大学教授星山麻木先生より、著書『虹色なこどもたち』をもとに、子どもの個性を七つの色で表現しながらお話しいただきました。一人の中に多彩な色があり、場面によって輝きを変える「虹色の個性」を生かすには、「存在そのものを認め合うこと」、そして「みんな違う」ことを楽しみ、耳を傾ける姿勢が大切であると語られました。さらに「セーフパースン（安心できる人）」や「セーフスペース（安心できる場所）」の大切さにも触れられ、安心の輪が社会を豊かにするというメッセージが心に残りました。



第二部では、スマホアプリを用い、会場の声をリアルタイムで共有しながら、三名のパネリストより多様な実践報告がありました。子どもの自由な遊びを支える活動や、居場所づくりによる保護者支援、地域と育む出前授業など、それぞれの取組から地域の力強さを感じました。

星山先生は「自然と人の温かさに恵まれた東北の地は、インクルーシブな教育の土壌にふさわしい」と話されました。参加者からは「心が温かくなった」との声も多く、安心と希望を共有できる学びの時間となりました。これから人も人となりが合い、安心して過ごせる居場所が広がっていくことを願っています。

(宮教大附属中 湯益 典子)

■大会二日目 全体会

9月14日(日) 東北大学百周年記念会館川内萩ホール

9月14日(日)、前日の分科会に続き、多くのPTA関係者が東北大学百周年記念会館川内萩ホールに集い、第57回日本PTA東北ブロック研究大会仙台大会「全体会」が開催されました。

オープニングアトラクションとして、くろしお太鼓応援隊による力強い二曲の演奏と、シンガーソングライター伊東洋平氏と仙台市内の小・中学生合同の合唱団とのコラボレーションで「優しさの色の歌」と「花は咲く」、アンコールでは「TSUBASA」を披露し、全体会を華々しく彩り、最高の幕開けになりました。

続く開会式では、青森県PTA連合会会長の棟方丈博様より開会のご挨拶を、台原中学校の生徒二名による国歌斉唱、大曽根学大会会長(仙台市PTA協議会会長)より主催者挨拶があり、会は粛々と進行了しました。表彰式では、東北六県と仙台市の優良PTA団体と個人へ表彰状が授与され、受賞者を代表して福島県



PTA連合会前会長の出川正人様がお礼のことばを述べられました。

全体会の要となる記念講演

は、東北大学加齢医学研究所准教授細田千尋先生による「脳の発達から考える教育と子どものウェルビーイング」



グ「自分で未来を切り開く力を育む」という演題でご講演いただきました。ファシリテーターにフリーアナウンサーの黒田典子様を迎え、講演では三つの副題を掲げ、地域・学校・PTA活動の中で子どもたちにどのように自己肯定感を持たせることができるのかをわかりやすくお話いただきました。会場内のPTA関係者は、熱心にメモを取りながら、先生のお話に終始耳を傾けていました。

今大会では、スマートフォンを用いた新しい質疑応答のスタイルを取り入れ、気軽に質問ができるよう配慮しました。細田先生に全ての質問に答えていただくことができないほど、数多くの質問が会場内から寄せられました。

講演中は研究者として真剣かつ淡々とお話をされていた細田先生ですが、ご自身も小学生と幼稚園児の

三児の母として日々忙しくお仕事と育児を両立させていらっしゃることもあり、ご自身のお子さんとの接し方などの質問が出ると、急に研究者から母の顔になり、言葉を選んでお話をされている様子が印象的でした。自身のお子さんにも脳科学の研究の結果が顕著に表れるものの、細田先生のような脳科学のプロフェッショナルも、日々三児の行動に翻弄され、不測の事態が多々あると伺い、とても親近感を覚えました。

記念講演後は、仙台のプロスポーツチームに所属するキッズのチアダンスグループが、次年度開催地の秋田県を応援すべく、合同でダンスを披露しました。その応援に応えるように、会場後方からは「なまはげ」も駆けつけ、秋田県をPRしていました。会の終盤にはご公務が多忙の中、郡和子仙台市長も駆けつけてくださり、ご来賓を代表して祝辞を述べられました。

大会二日目も無事に終えることができ、実行委員として運営に携われたことへの喜びと、今大会のために多くの時間を共にしたすべての実行委員の皆様への感謝の気持ちで大会を締めくくることができました。



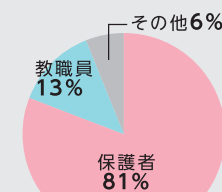
(柳生中 遠藤 佳奈子)

第57回 日本PTA東北ブロック研究大会仙台大会 アンケート結果

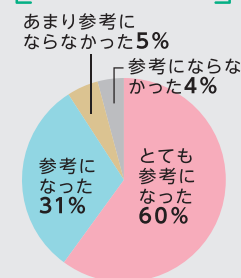
参加者 9月13日(土)・14日(日) 計1,103名



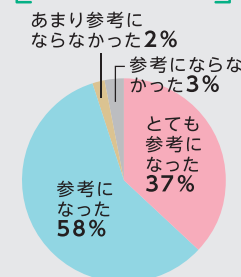
[PTAでの立場]



[分科会の 内容の参考度]



[全体会の 内容の参考度]



分科会について(ご意見・ご感想)

- PTA だけではなく、バーチャルとリアルの中で生きている現在とこれからの若い子どもたちの姿として仕事の新人教育にもヒントをもらえました。
- 母校へわが子を通わせている人を羨ましいと思いますが、故郷を離れた身としても貢献の仕方は様々あると皆さんから教えていただきました。
- この研修で星山先生から、「どんな特徴もきれいな色だから、それを塗りつぶさないでほしい」と言われ、私自身が救われました。この研修で星山先生の話聞いた私は幸運だと思います。
- 部活動地域移行について、教員や地域の方々のお話を聞くことができとても参考になりました。特に教員の方のお話で、これまで自身が経験したことがない競技の顧問をされたときに、子どもたちと一緒に学ぶ気持ちで人間力の成長を重視していた、という部分は大いに勉強になりました。

記念講演について(ご意見・ご感想)

- 多様な子どもたちがプライバシーを守りながら信頼できるつながりを作ることが社会活動を通して生き抜く力を養うために重要であることを学ぶことができました。
- 脳科学の視点からエビデンスに基づいたお話というのは、新しい学びでした。
- 地域の人との関わりが大事ということがわかる中で、これからの時代どのようにその機会を作り、信頼できる大人を増やすといった課題は難しいものだなと思いました。

その他(大会全体について)

- 不登校の子どもがいる知り合いのために何か勉強になる事はないかなあと思って参加しましたが、自分や我が校のためになるお話が聞けて良かったです。特に多くの学びの場ができる多様化、学校について今後ぜひ取り上げてほしいと思いました。
- あれだけたくさんの大人が子どもの教育と成長に関わってくださっていると思うととても感動しました。
- 研修として出席を要請するなら、今年や来年の活動に直接的に参考になる内容にしてください。

子どもの居場所を創るために、今日から私ができることは？(自分宣言)

- 子どもが何か困った時、一人で解決できない時、助けてくれる人が思い浮かぶような地域の在り方を考えていきたい。
- 家庭や学校・地域で人との繋がりを小さくてもよいので作り始める。親が動く子どもは自然と真似をしようとすることから、自分自身で人との繋がりを創れるようになると、自然と喜びや自身に繋がり、自分の居場所を創れるようになると信じて。
- 子どもに「地域に関わりなさい」と口で言うのではなく、私たち自身が地域に飛び込み子どもたちと一緒に地域の中へ巻き込んでいくこと。
- 大人の居場所を創る。互いに協力して子どもを支える体制を整える。
- 私自身が学び、笑顔で生活し、そんな私をみて子どもが未来に希望をもてるような生き方をする！
- 子どもの話をきちんと聞く！子どもが話しかけてきたら、ちょっと待ってと言わずに、子どもを優先する。家庭や学校以外に、子どもが楽しく活動できることや場所を親子で開拓していく。
- 誰かの、親以外の信頼できる大人になれるよう生きていきたいと思う。

事務局 から

時代が変わり、形が変わったとしても子どもたちを支えていくべきは、私たち大人であり、その支えは不可欠であると改めて感じた大会になりました。アンケート以外にもたくさんの方からご意見ご感想を頂いています。

ほんの一部のご紹介ですが、この大会に参加して良かった、今後の活動のヒントが得られたとのご意見は本当にうれしく感じています。時代に沿ったテーマの検討、運営の形、より多くの方に興味を持っていただく為の広報等、課題も改めて見えてきました。浮き彫りになった課題は真摯に受け止め、今後のより良い活動に繋げていけるよう努力していきたいと思っています。

今大会へのご参加とご理解、アンケートへのご協力誠にありがとうございました。～大会事務局～